なやみと宗教

デンキが来ない、水が来ない、ということで、精神的に困ったことがある

そんな時どうしているのだろうか

友人の一人は正夏の子であることにおっとりにおもくるしかかってたようだがそれでも若い財は遊興とすごしているようにみえたが年と共に独身になっていった　宗教へとうわさをきく

今一人の友人は娘がフランスへ行ったまま、一人ぐらしになった何年か前　宗教にはいり宗教仁の友達が出来たようだ

近所の子だくさんだが仲のよい友人が夫と仲よく暮り離婚をし宗教にはいった

ある男性は妻が他の男性の所へ行ってしまった宗教へはいった

それぞれの宗教にはいった人達は自分は元気でいるとのことが結果がそうなるのかとても不思議な気がする　自分のなやみを

皆様方は宗教がうかとも解決してくれるものであろうが　その宗教のおしえを信じることは自問だが自分の持っている苦やみを解決することと思える

宗教により心の平和が云われることだが苦やみのこだわりを少なくすることなのだ

私は苦やみを神経がうかとなっているうちに等状になったり胃潰瘍になったりそうして自分の仕事ができなくなったもちろんそれで解決はしていない

手かりの人のなかを見ていると宗教に入ったから解決したとは思えない　解決したつもりになっているようにも見える

解決は問題の人とはそうことおと思その原しが不経で苦やみはますます私自身相手と仲が悪くなってしまうからだ

それは特別な事象が必要だ

でも時が解決してくれる　時がたつとそのいろ平和なったと過去のものとなって見ることができる